

## 第7回日釣連チヌ釣りトーナメント大会 4位 三重県釣連盟 根間 佳秀



第7回日釣連チヌ釣りトーナメントが和歌山県目良の磯一帯で行われました。

私自身、和歌山県でのチヌ釣りは初めてで、目良はグレ釣りでも来たことのない、初めてのフィールドです。

勿論事前の釣果情報や釣り方の情報はなく、どの様な仕掛けで対応すべきか迷っていたところ、周りの参加者からは、「棚が浅い、数釣りできる」との声が多数あった為、パイロット仕掛けはグレ釣り同様の仕掛けとし、口ナマリは使用せずに、上層からゆっくりと探る仕掛けと決め、渡船に乗り込みました。

港を出てまず驚いたのが、足場が低い磯が多いという点です。

潮によっては、満潮時に釣りができないのでは。と思えるくらい低い磯で、沖に出ても水深が浅く、シモリが多く点在する独特の雰囲気でした。

見慣れない磯に気持ちが高ぶるなか、一回戦で降った磯は、やはり全体的に浅く、シモ

リが点在し、海底も起伏にとんだ地形でした。底狙いは難しいと判断し、当初の予定通りグレ釣り用の仕掛けで口ナマリはうたず、ウキは0号を選択。

まずはウキでアタリを取るべく、ウキ止めを二ヒロの場所に目印としてつけ、それ以上は入れ込まない様にしました。

更に撒き餌も仕掛けと合わせて、出来る限り固めずにパラパラと撒き、活性の高い個体を浮かして釣る作戦でしたが、初めにヒットしたのは良型のオナガグレでした。残念ながらタモ入れ寸前でチモト切れ。その後はアタリがないまま餌が取られる状況が続きましたが、突如として餌が残り出した為、ウキ止めの位置を一ヒロ半と浅くしたところ、いきなり引ったくるアタリで、竿に伝わってる感覚からチヌと確信。シモリも多いため、慎重にやり取りをして貴重な1匹を取り込む事ができ、二回選に進むことができました。

二回戦の磯も一回戦同様にシモリが多い磯だった為、仕掛けは変更せず、タナは一ヒロ半でスタート。一回戦を勝ち上がった2名の方と計3名での対戦です。

ここでは一回戦と異なり、撒き餌に反応するチヌが目視できます。なるべく浅く釣る様心掛けたことが功を奏し、開始早々に3匹を釣り、場所交代毎に1匹ずつ追加。結果5匹も釣ることができ、決勝戦へと勝ちあがることができました。

ここまでの状況でチヌは上ずっていると判断し、決勝戦も軽い仕掛けで臨むこととし

ました。

さて、いよいよ決勝戦です。

これまで同様、浅く釣る事を心掛けて挑みましたが、残念ながらチヌの顔を見ることはなく、決勝戦は終了。

他の方々との釣り合いに参戦することは出来ませんでした。

対戦相手の方々はチヌ釣りの基本通りに、海底付近にエサが溜まるポイントを作り丁寧に探っていました。

私の場合、一回戦、二回戦と浅いタナでチヌが釣れていたため、どうしても「浅い」というイメージが最後まで捨てきれず、対戦相手とは真逆の釣りを展開してしまいました。

今振り返ると、やはり釣れない時こそ、こだわり（イメージ）を捨て、大きく釣り方を変える意味でも、上層狙いから、セオリー通りにハリスに口ナマリをうち、餌が溜まっているであろう底付近を探る釣り方に変更すべきであったと思います。

また、チヌの喰い気も、場所だけでなく、時間の経過によって異なる為、釣れない場合の次の一手を事前に計画しておくべきでした。

最後に、大会役員の方々、本大会の運営に携わった方々にお礼申し上げます。ご配慮いただいたお陰で、安心して大会に参加することができ、怪我もなく無事に大会を終えることが出来ました。

今回初めての目良の磯でしたが、間違いなく、好きな場所となりましたので、またプライベートでも訪れてみようと思います。